

シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域の湧水湿地の代表的な固有種である。

【形態】

1年生草本。茎は通常ごく短い、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ5~30cm、幅1~5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は8~10月、花茎は1本のものから50本以上出るものまであり、直立して高さ15~60cm、4肋があつてねじれ、基部に3~12cmの鞘があり、先端に1個の頭花をつける。頭花は球形、直径5~10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は3室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯(芹沢 53594)、豊橋北部(芹沢 78852)、豊橋南部(芹沢 56675)、田原赤羽根(芹沢 56701)、渥美(芹沢 57929)、藤岡(芹沢 77666)、豊田東部(芹沢 60057)、豊田北西部(芹沢 62628)、三好(芹沢 81094)、瀬戸尾張旭(芹沢 73328)、日進長久手(芹沢 78033)、豊明東郷(芹沢 59861)、半田武豊(芹沢 76155)、常滑(相羽福松 4052)、知多南部(中井三従美 52)、犬山(芹沢 60252)、春日井(村松正雄 18978)、名古屋北部(鳥居ちよ子 503)、名古屋南東部(芹沢 53337)、このほか刈谷知立(刈谷市牛池、芹沢 38107、1983-9-17)などにもあつたが絶滅した。

【国内の分布】

本州(静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部)に分布する。

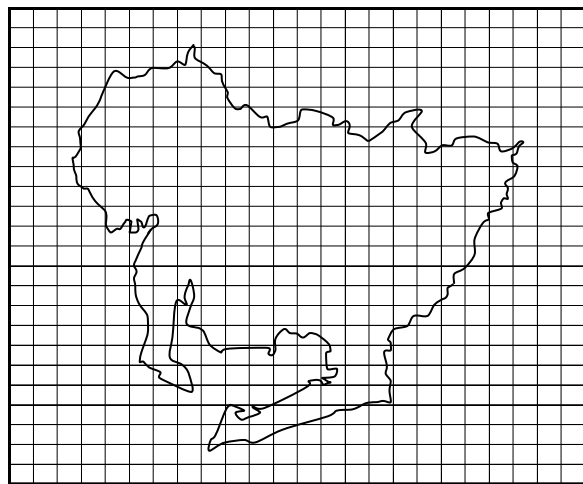
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところはまだまだあちこちに生育しており、個体数も多い。しかし、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、「どこにでも、いくらでもあつた」と言われる過去の状態に比べれば、減少傾向は明らかである。過去20年間に消失した自生地は数多いが、その間に自然に分布を拡大して形成されたと思われる自生地は2例しかない。

【保全上の留意点】

湧水湿地の保全が必要である。特に尾張北部では生育する湿地が限定されており、ある湿地には多産するが、隣接する同じような湿地には全く見られないことも多い。これらの地域では、特定の小湿地の破壊が直ちに地域集団の消滅につながる場合もあり、注意が必要である。

その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に何者かの手で播種されることも多い。その結果は、すぐに消滅することもあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではなく、それぞれに個性がある。本来ないものは、「ない」のが自然の姿である。一度播種すれば、将来自然に分布を拡大してきて自生と判断できなくなり、保全の対象から外れてしまう。

【特記事項】

近年自然に対する市民の関心が高まったため、「ある」という話が広まるとすぐにぞろぞろと人が押し掛け、踏み荒らされて湿地が荒廃する例があつた。自然に親しむ行為は、それ自体が自然破壊行為の要素を含むことを認識する必要がある。

【関連文献】

保草本 p.182、平草本 p.80、SOS旧版 p.98 + 図版 18、環境庁 p.576、SOS新版 p.90,92。